

サッカーにおける得点と勝敗の関係 —世界4大リーグとJリーグとの比較—

The relations of goals and results about soccer games -The comparison of the world 4 Major Leagues and J.League-

1K10C071-5 梅島 準平
主査 堀野 博幸 先生 副査 石井 昌幸 先生

【目的】

Jリーグが開幕してまだ20年しか経過していない中で、着実にサッカー日本代表は、国際舞台で結果を残してきているが、世界のトップと比較するとゲーム内容に大きな差がみられる。しかし、サッカーは内容に関わらず、相手より多く点を奪えば、勝利できる競技であり、最大の興味が得点に注がれる。

そこで今回の研究では、Jリーグ創設20周年という節目を迎えたにあたり、Jリーグとサッカー世界4大リーグを比較し、得点が勝敗に及ぼす影響について考察し、現代サッカーでは、勝利するために、どのような得点が必要であるのか、検討することを目的とした。またJリーグと世界のトップにはどのような差があるのか、調べることを目的とした。

【方法】

1. 研究対象

2012/2013シーズンのサッカー世界4大リーグ（リーガエスパニョーラ 380 試合、プレミアリーグ 380 試合、ブンデス 306 試合、セリエ A 379 試合）、Jリーグ 306 試合の合計 1751 試合を対象とした。

2. データ収集

試合データは、UEFA 公式ホームページと Jリーグ公式記録集より収集した。分析項目は、勝敗に関わる得点の要素として3項目を設定した

【結果】

1. 「得点」に関して

試合開始から15分までの得点数と試合終了残り15分の得点数を比較したところ、後者の方が有意に多いという結果が4リーグでみられた。Jリーグは試合開始から15分の時間帯での得点が少なく、試合残り15分での得点数が有意に多いということが分かった。

2. 「先制点」に関して

先制点は、前半開始から15分、15分から30分の2群間の時間帯がそれぞれ後半の45分から60分、60分から75分、75分から90分の3群間のどの時間帯よりも有意に多いということが分かった。

先制点を挙げたチームは勝ちが引き分けや負けよりも有意に多いという結果になった。

Jリーグのみ、先制点を奪った試合の結果で、上位、下位で有意差がみられなかった。

3. 「決勝点」に関して

プレミアリーグとセリエ A、Jリーグの3リーグでは、試合開始から15分の時間帯と試合終了15分の時間帯を比べると、後者の時間帯に有意に決勝点が多く決まっていることが分かった。

Jリーグでは他の4リーグと比較して、試合残り15分の時間帯の75-90分での決勝点数が有意に多いということが分かった。

【考察】

1. 「得点」に関して

勝利チームの得点数は、リーガエスパニョーラ、プレミアリーグ、ブンデスリーグの3リーグにおいて、1得点での勝利数が2得点での勝利数より有意に多かった。セリエ A、Jリーグにおいては、1得点、2得点での有意差はみられなかった。現代のサッカーでは多くの得点を奪い勝利するよりも、1得点を確実に奪うことが重要になっていて、1点の重みが増していると考えられる。

2. 「先制点」に関して

先制点を取ったチームは勝ちが、引き分けや負けよりも有意に多いという結果になった。勝つためには先制点を取ることは重要であるが、上位、下位で結果に大きな差がみられたことを考慮すると、先制点が勝利への第一条件とはいえ、チームとしての実力差が大きい場合では、先制点を奪っても勝利することが難しいということがいえる。

3. 「決勝点」に関して

どのリーグにおいても決勝点は3点以上の点数よりも1点目が決勝点になっている数が有意に多いという結果になった。現代サッカーでは、1、2点目が決勝点になっている試合が多くみられ、大量得点することよりも1得点、2得点で勝利することの出来るチームとしての総合力が必要になってくるということがいえる。

【結論】

本研究から、現代サッカーでは、1点の重みが増しており、大量得点を奪うことよりも1得点あれば勝てる、チームの総合力が重要であるということが分かった。